令和７年度　自己評価書

学校名	和歌山市立中之島小学校

1　教育目標

豊かな心と学ぶ意欲をもち、たくましく生きる子供の育成

2　本年度の取組についての評価

	確かな学力の向上	豊かな心の育成	健やかな体の育成	地域とともにある学校
指標	・県学習到達度調査における正答率について県平均を目指す ・「毎日の勉強がわかる」(児童90%以上)	・「心のとびら」の活用100% ・「学校が楽しい」(児童95%以上) ・いじめの解消率100%	・体力運動能力調査結果で、[A][B]判定の割合が[D][E]判定の割合を上回る ・「朝ごはんを食べる」(児童100%を目指す)	・「学校と家庭はよく連携・協力している」(保護者80%以上) ・幼小連携や中学校との交流事業を充実させる
重点目標【P】	◎基礎・基本の確かな定着 ◎授業力の向上 〇書く活動の推進 〇読書活動の推進	◎道徳・人権教育の充実 ◎いじめの未然防止、早期発見 〇仲間づくりの実施	◎体育科教育の充実 ◎運動好きの子供の育成と体力の向上 〇基本的生活習慣の確立	◎家庭・地域との連携充実 ◎幼小の接続、中学校との連携の推進 〇地域の人材活用の推進
取組の状況【D】	・和歌山の授業づくり基礎・基本3か条を徹底して授業実践を行った。 ・教職員は一人1授業の研究実践を課して授業改善を継続して行い、子供たちがより分かる工夫した授業づくりに取り組んだ。 ・中之島タイムの充実を図り、eライブラリーやクロムブックを活用し、基礎学力の定着を図った。 ・体育科の学習をはじめ、書く活動を取り入れた授業を進めた。 ・学校図書館環境の充実をはかり、読書に親しむ機会を広げた。	・道徳の授業実践の充実に努めた。 ・いじめなくそうデーの取組やいじめアンケートを定期的に実施し、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努め、組織的に解決を図った。 ・SNSなどの情報モラルについて、子供や保護者ともに学ぶ機会をもち、教育活動全体を通じて人権教育を推進した。	〇学校全体で体育科教育の研究実践に取り組み、研究発表を行った。 〇健康維持・体力の向上を目指し、担任による休憩時間の外あそび推進や体育イベント、放課後開放を積極的に実施した。 〇生活リズムの安定を図るため、学期に一回、生活点検を行うとともに、基本的生活習慣について保護者への啓発に努めた。	〇幼小の交流機会を増やした。 〇中学校との英語科の連携を増やし、交流や研修機会を増やした。 〇授業のゲストティーチャーや読み聞かせボランティア等、地域の方々の協力をいただいた。
取組の成果と課題（評価結果【C】）	・県調査の結果、4・5年生ともに国語・算数で県平均を下回った。特に4年生「書くこと」(26.8%)、5年生「読むこと」(50.5%)の定着が十分ではなく、読解・表現力に特化した授業改善が急務である。 ・「授業がわかる」児童は91%に達するが、残り9%への個別支援が課題である。習熟度に応じた指導を徹底し、基礎・基本の確実な定着を図る。 ・「図書ボランティア」や「語りの森」との連携により、読み聞かせや季節感ある環境整備が定着した。今後は児童の読書意欲(現在75%)をさらに高める蔵書更新やシステム整備を推進する。	・「学校が楽しい」の肯定回答は極めて高く、否定派は3%(「思わない」は0%)に留まる。 ・継続的な対話の時間確保がいじめ未然防止の鍵である。 ・「心のとびら」活用率は100%を達成。道徳の充実と全教育活動を通じた人権教育を推進する。 ・幼小連携の拡大は、園児・児童双方の主体性を育む良好な刺激となった。	・体育への肯定的回答は95%と高く、体力調査でもAB判定(82%)がDE判定(78%)を上回った。 ・朝食摂取率は90%を維持するが、一部に欠食が見られる。 ・課題はメディア視聴1時間超が約6割に上る点である。生活リズムの乱れを改善するため、家庭と連携した基本的生活習慣の確立が急務である。	・「学校や子供の様子を、わかりやすく伝えている。」の項目で、肯定的な回答が85%であった。 ・「学校と家庭はよく連携・協力している」の項目では、82%の肯定的な回答であった。 ・図書ボランティア、語りの森、日本語ボランティア、見守り隊、花いっぱい運動、なかのしままつりなど地域や保護者よりたくさんの連携・協力をいただいた。
次年度に向けての改善方法【A】	・基礎基本の確かな定着 ・教科横断的に、「書く活動」を取り入れた授業の継続 ・家庭学習の内容の質的向上(自学ノートの活用等) ・読書タイムの継続	・道徳の時間や人権学習の時間確保 ・幼小連携で得る情操教育 ・外部機関との連携した情報モラル等の指導・啓発	・大休憩や昼休憩時間、体育イベントを通しての体力増進の継続 ・生活点検を通して、寝る1時間前のメディア使用の削減及び家庭との連携を啓発	・「ICTツール(『つながる連絡』、HP等)」の効果的な運用による情報発信の迅速化と可視化 ・幼稚園との常時連携や中学校との授業交換などの連携強化 ・学校教育活動への協力を積極的に地域や保護者にお願いする。

3　その他の課題

【図書環境・ボランティアについて】
ボランティアの協力により、季節感のある良好な図書環境が整備されている。一方で、図書管理システムの未導入による業務負担や、巡回学校司書の配置がないことによる専門的整備の遅れなど、予算面・体制面での継続的な課題がある。
【生活習慣・メディア利用について】
就寝1時間前のメディア利用(テレビ・ゲーム・SNS等)削減に向けた啓発が不可欠である。質の高い睡眠を確保し、朝食摂取の習慣化を図るため、家庭との連携を深め、継続的な周知を行う必要がある。
【児童の読書意欲について】
児童アンケートにおける「読書が好き」との回答は75%に留まった。読書意欲をさらに喚起するため、児童の興味に即した蔵書の更新や、魅力ある図書環境の再構築に向けた工夫が求められる。